



JAPAN
MARROW
DONOR
PROGRAM

安全情報

平成 16 年 11 月 22 日

(財) 骨髄移植推進財団
認定施設連絡責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会

採取後角膜糜爛となった事例について

このたび、非血縁者間骨髄ドナーに、骨髄採取後（麻酔覚醒後）「角膜糜爛」と診断された事例が報告されました。

採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

< 経過 >

全身麻酔時にテラマイシン眼軟膏を塗布したのち閉瞼した。ただし、当該ドナーはテープの剥離刺激で一過性の発赤を生じる特異体質であったことから、テープでの閉瞼の際、普段は瞼裂をすべて隠すように横に貼るところ、少し緩めに縦に貼った。手術前後で閉瞼されていたことは確認していた。

採取終了後(帰宅 2 時間後)、左眼痛を訴え、眼科診察で「左眼角膜糜爛」と診断された。

< 対応 >

ヒアレイン点眼、ロキソニン 1 錠内服にて翌朝には改善した。

< 原因 >

本事例は、片側性の糜爛であったことから薬剤性については否定的であり、かつ、症状の急速な改善から感染性についても否定的な見解であったことから、閉瞼が甘かった可能性が考えられた。実際、手術中腹臥位になっていた時にほんの一部開瞼していた可能性はあるものの、原因の特定はできなかった。

当財団としては、再発防止の観点から、当該事実を各採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すこととしました。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会
(事務局 担当: 折原)
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町 3-19
廣瀬第2ビル 7 階
E-mail: orihara@jmdp.or.jp